

11月22日 京都新聞文化センターが会場

新聞やテレビのニュースを読み解き、活用する力を測る「ニュース検定」(ニュース時事能力検定試験)が11月22日に行われる。今年から京都新聞社が主催に加わり、京都の検定会場は京都新聞文化センター(京都市中京区烏丸通夷川上ル)に開設される。検定は、大人が日ごろのニュースの知識を試すのはもちろん、未来の社会を担う子どもたちにニュースを読み解く力を身につけてもらうためにも活用できる。特に毎日の新聞を活用して力を伸ばすことが重要だと専門家は指摘する。京都でNIE(教育に新聞を)活動に長年たずさわってきた京都文教大の橋本祥夫准教授(53)に聞き、新聞活用に取り組む小学校を取材した。(古市大)

ニュース検定

子に読み解く力を

新聞めぐり「問題意識」育む

スマートフォンが普及して、関心のあるニュースや話題は検索して詳しく知ることができるようになりました。でも、新聞には自分が興味がないニュースもふと目にとまってしまうことがある。スマートフォンより紙面を見た方が、インパクトがあつて記憶に残るのではないだろうか。



ニュースを通して地域の未来や課題を考える大切さを語る橋本祥夫准教授(14日、宇治市横島町・京都文教大)

NIE活動行う 橋本祥夫 京都文教大准教授に聞く

取材を通して、地域で働く人たちの親切や特産の魅力に触れ、自分たちが住むまちを好きになっていきましょ。そして、地域の未来や課題を考えるようになりまし。何を取材するか考え、質問するために、地域の課題を考える「問題意識」が必要。問題意識や好奇心は、まず知識がある分野に広がっていきます。私は子どもたちも一人の市民として、まちの将来や課題に意見を述べたいと考えています。ネットでは詳細に読めないわがまちのローカルニュースを新聞で継続的に読むことで、そういう力が育まれると思います。ニュース検定は、世の中についての知識を測るものさしになるでしょう。幅広い知識を得て、自分なりに社会に対する考えを育んでほしいと思います。(談)

授業に活用 社会に関心

西京・竹の里小



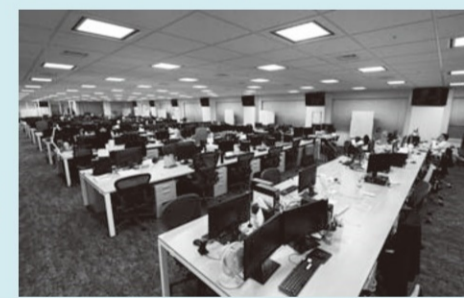
毎朝10分間、新聞から気になる記事を探して読む児童たち(京都市西京区・竹の里小)

新聞を活用した教育で、子どもたちのニュースへの関心を飛躍的に高めた小学校がある。毎朝、クラス全員で新聞を読んで感想を話し合うという京都市西京区竹の里小を取材した。

授業が始まる前の午前8時半、6年生たちが廊下の棚にある一般紙や小学生新聞を選ん

新聞コロナウイルスの感染拡大を受けて、「テレワーク」を導入する会社や店舗が増えてきました。テレワークとは、パソコンなどの情報通信技術(ICT)を活用して「A」などで仕事をすることを、「B」ともいいます。「A」「B」に当てはまる言葉の正しい組み合わせを、①～④から一つ選びなさい。

- ① A-自宅 B-リモートワーク
② A-自宅 B-ライブワーク
③ A-会社 B-ネットワーク
④ A-会社 B-ハードワーク



2020年度検定問題5級より抜粋

で読み始めた。赤鉛筆で線を引いたり、辞書で分からないう言葉を真剣な表情で調べている。10分後、当番が記事を紹介する「新聞スビーチ」が始まった。林佳菜さん(11)は、競泳の池江璃花子選手が闘病から復帰した記事を取り上げた。「私ならつらい病気になった後、頑張ることができないかもしれない。みんなはどう感じたの」と問いかけた。「水泳が大好きだから頑張れるんだ」と思ふ「闘病前との差は大きいのでは。お年寄りになってきていたことができないかな」と同じように悔しいだろうなとクラスメイトが次々と感想を話した。新聞スビーチで身につけたことを振り返ってもらった。興味があつたこと、小さなニュースにも注目するようになった「高橋紀君」みんなの意見を否定せず聞くことで互いを認め合う力があつた「村西姫乃さん」担任の藤江智美教諭(38)は当初より関心を持つ記事が政治や国際問題へと広がるといふ。二人一人がどんな記事を紹介したのかと日常的に話し合いの考えを知るとが刺激になって社会への関心が高まった。ニュース検定は興味のある分野だけでなく、幅広く知ろうとする力になる(思)で話す。